

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 宮尾 紘 司
 幹事 水谷 祥 督
 広報・会報委員長 伊藤 健 文

No. 23

ロータリーは分かちあいの心

ROTARY SHARES

2007~2008年度 RI会長 ウィルフリッド J.ウィルキンソン

きょうの例会
 第1212回 平成20年1月22日(火)
 友愛の日

先週の記録
 第1211回 平成20年1月15日(火) 晴

◆“奉仕の理想”

◆出席報告

会員	60 (55) 名	出席	43名
出席率	78.18 %		
前々回	12月25日 (修正出席率)	92.98 %	

水谷幹事報告

- 1) 本日例会終了後、諮問会を開催致しますので、担当の方は牡丹の間にお集まり下さい。諮問会終了後、協議会を開催いたします。
- 2) 次回11時45分より理事役員会を開催致しますので、理事役員の方はお忘れなくご出席下さい。例会終了後、臨時総会を開催致しますので、全会員お残り下さい。
- 3) ロータリーの友とガバナー月信が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

宮尾会長挨拶

今日は通常ならば成人の日です。昔の成人式は元服式で15歳で行われましたが、なぜ1月15日に成人の日としたのか、良く分からないので少し考えてみました。古来、三元として上元の日を1月15日、中元の日を7月15日、下元の日を10月15日とするのが陰陽道での祝日です。御中元を旧暦の7月15日迄に送るのは、“生仏・生身魂”と云って両親や目上の人に贈り物をする習慣が今も続いているのです。又、1月15日は小正月と言って、商家の奉公人達の休日でした。従って、15歳、上元の日、小正月で人も集まり易いので、1月15日に元服式をする事が多かったのかもしれない。

小正月は、元日を中心とした大正月に対し、女の正

月、小者の正月とも言います。暦の知識の普及する前は満月の十五夜を年の境とするのがわかりやすかった為だそうです。又、「小正月の事を小年」とも言い、宮中行事や武家の諸行事等の公式行事に対し、農耕の豊凶を占ったりする私的な行事の日とされてきました。従って全国でこの日を中心に農耕に関する年占の行事、どんど焼き、なまはげなどの行事が行われ、二番正月とも言われます。今日は小豆粥を食べる習慣があります、又女の正月なので、いつも働いている女性に料理を作らせないで、男が料理をする日とも言われているようです。

今日、奥様に代わって夕食を作るか、料理をさせないで、ディナーに誘ってみては如何でしょうか？

◆卓話“ロータリー雑感”

会員 大口弘和君



私のロータリー在籍中における思い出に残ることについて、PCの映像とともに、お話いたします。

私は1980年7月に名古屋瑞穂RCに入会しておりまして、千種ロータリーには1982年9月に入会しました。最大の思い出は、前クラブで経験できなかったチャーターナイトであります。西川さんご夫妻の横に並んで舞台に整列したことが、昨日のように思い出されます。今ではその経験者は6名になってしまいました。

次は、20周年記念例会・事業であります。記念事業は、国際貢献事業としてNGOのキャンヘルプタイランドを通じて、タイ・サケート県のバン・ライサムシー学校に校舎を寄贈（完成式に出席して貴重な体験をしました）。国内（地域社会）貢献事業として、東山植物園内の万葉の散歩道に、千種区の花であるアジサイ

を詠んだ橘 諸兄の歌碑（黒野さん揮毫）を建立して寄贈。伝統文化の育成貢献事業として、能楽の演奏活動・普及育成への支援を行いました。この模様は、中日新聞・朝日新聞・中部経済新聞に詳しく掲載され、この活動は同年度国際ロータリー2760地区の「RIの広報賞」を受賞することになりました。広報賞はなかなか受賞することが難しいと言われております。

また、歴代会長座談会を開催し、その内容は幹事の谷口さんのご尽力により記念誌に掲載されました。今

後は25周年事業でも行ったように、当クラブ独自の活動としてキャンヘルプタイランドを通しての事業を継続してゆければよいと思っております。

1996年2月にWCS活動視察（フィリピン）に参加したことや、2000年3月のライラセミナー（美浜少年自然の家）に参加したこと等が思い出されます。

最後に、27年半にわたり100%皆出席を継続できているのも、皆さんの友情と健康に恵まれたもの感謝しております。

ロータリーの友より

ガバナーわが地区自慢

世代を継ぎ地域貢献する先輩方

来年開港150周年を迎える横浜の歴史には、関東大震災と横浜大空襲の2回にわたる、壊滅的な被害からの復興を忘れることはできません。そこには先人たちの並々ならぬ努力があったのです。中でも繁栄する横浜を突然襲った震災の衝撃は、市民にとって計り知れないものでした。1923年9月1日、相模湾の海溝を震源とするM7.9の大地震が発生。震災と直後の火災により「開港前の何もない村のよう」と言われたほど、横浜は大きな被害を受けました。当社の前身である亀ヶ谷薬局も創業後わずか4か月で焼失し、ゼロからの再スタートを余儀なくされたと祖父から聞いています。

当時のガイ・ガンディカー国際ロータリー会長から2万5,000ドル、世界503クラブから計8万9,800ドルの救援金が送られ、震災60時間後には、横浜港に米海軍の食料や救援物資が陸揚げされました。日本の2人目ガバナーの井坂孝氏が時の首相や大蔵大臣と交渉され、復興の大きな力となりました。また、生糸貿易で横浜の繁栄を牽引しておられた原三溪翁は復興会会長として奔走され、私財を投げうって市の復興にあたられたことは多くの市民の知るどころです。今回、寄稿いただいた原氏の先々代が原三溪翁に当たります。

世代を継いで地域貢献を意識される諸先輩ロータリアンの皆さまが、わが地区の誇りであり、自慢です。

（横浜港北 亀ヶ谷 邦博）

よねやまニュース

日本語弁論大会で米山学友が準優勝！

国連NGO世界平和と女性連合（WFWP）主催の「WFWP女子留学生日本語弁論全国大会」が昨年11月29日、都内で開かれました。この全国大会には、出場総数223人の女子留学生のうち、最終予選を通過した9人が出場。米山学友の鄭企娟さん（韓国/2004-05/埼玉大学大学院/浦和東RC）が準優勝に輝きました。鄭さんは再生不良性貧血という難病と闘いながら勉強を続けています。病に倒れ、一時は余命宣告さえ受けながら、ロータリアンや友人の支えで生きる力を取り戻した鄭さん。「来日したときは、一生懸命勉強して、仕事をして、おいしいものを食べて人生を楽しみたいと思っていた。でも、今は違う。もう一度健康になって、自分のためではなく、人のために生きたい。本当の夢を与えてくれた国、日本が大好き」と語り、弁論後には会場のあちこちで涙をぬぐう姿が見られました。

ニコボックス

紺矢 寛朗

今年は残りわずかの例会場最後までがんばります よろしくお願
いいたします

宮尾 紘司

伊藤健文さん御夫婦で日展入選
おめでとうございます

大川 勝平

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いいたします
本日今年の初出勤です

大口 弘和

本日卓話させていただきます

油田 弘佑

在田 忠之

後藤 滋巳

服部 正夫

伊藤 健文

加藤 重雄

小山 雅弘

黒須 アイ子

水谷 祥督

足立 一郎

江口 武史

萩原喜代子

池森 由幸

伊豫田 博明

川浦 忠

久野 峯一

牧野登志子

西川 豊長

岡田 雅俊

佐久間良治

笹野 義春

鈴木 正男

竹内 眞三

遠山 憲孝

山本 英次

宮尾丸あと半年頑張ってください！

川端 圭

会員誕生日祝い

奥村 彰司

佐野 寛

澤田 淳治

鈴木 理之

舎人 経昭

和田 正敏

吉田 節美

合計

61,000円

次回例会

平成20年2月1日(金)

節分会

於 城山八幡宮

午後5時30分